

内科学実習（青木 一孝）

Training of Internal Medicine (Kazutaka Aoki)

キーワード

- ① 全身管理医歯学
- ② 内科学
- ③ 内分泌代謝学
- ④ インスリンシグナル伝達系
- ⑤ 腎臓内科学

関連する学位授与方針
DP(ディプロマポリシー)

- ①.②.③.④.⑤

関連する教育実施方針
CP(カリキュラムポリシー)

- ①.②.③.④.⑤.⑥

授業概要

本実習では、内科外来および臨床検査室で患者の診察および各種臨床検査を実際に行いながら、カンファレンスにて討論をする。また、必要に応じて医師の指導の下、内科外来で診察、治療計画立案を行う。それにより内科疾患を合併した歯科患者の歯科治療を安全に施行できるとともに医師のみでなく看護師、薬剤師、臨床検査技師と密接な連携をはかり医療安全を確保できるようになることを目的として開講する。

授業科目の学修目標

内科学は、患者との医療面接と観察から始まり、それを体系的に把握、分析し、病態生理および病因を明らかにし、的確な診断と治療を行う学問である。内科学実習では内科学臨床研究を通して内科学の基本と臨床研究を行うための医療倫理を理解し、内分泌代謝学、腎臓内科学の研究を通して内科学全体を理解することを目標とする。

授業計画

- ① 医師の指示の下、患者の診察、治療計画立案、基本的な内科の診断を行い、内科診療に必要な医療倫理、医療安全を教授する。24コマ
- ② 内科学臨床研究計画立案実習
実習で見出した臨床上の問題を解決するための臨床研究計画の立案と医療倫理を教授する。12コマ
- ③ 内分泌代謝学基礎実習
糖代謝の主要臓器の肝臓、筋肉におけるインスリンシグナル伝達系測定の基本的な手技を教授する。12コマ
- ④ 腎臓内科学実習
腎臓疾患(慢性腎臓病)のステージ分類、多職種連携による療養方法、および基礎研究の展望を教授する。12コマ
実習担当教員 青木一孝 橋本達夫

教科書および参考書

内科学 第12版 矢崎義雄 総編集 朝倉書店

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、内科診療の技法や実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 内科診療の基本である診断、治療の立案を医療安全と医療倫理を遵守しながらできる。
- ② 問題点の発見と解決するための臨床研究の理論を理解し、医療安全と医療倫理を遵守しながら実践することができる。
- ③ インスリンシグナル伝達系の測定法を理解し実践することができる。
- ④ 慢性腎臓病を理解し療養生活を支援できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の4項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の4項目についてプロダクト達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

内科学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。医療安全と医療倫理は100%を求める。